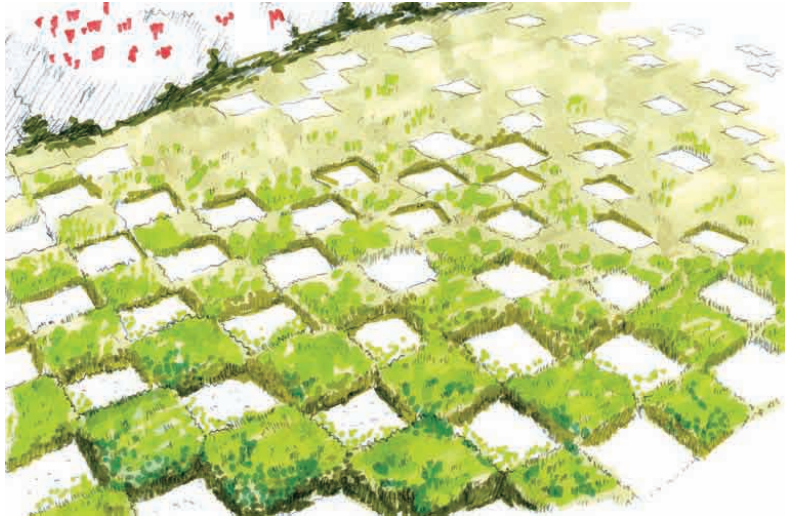


東福寺

東福寺「八相の庭」。釈迦の生涯を表す「八相成道」の言葉にちなむ。

北庭は、敷石と苔とを市松模様においた「市松の庭」。規則正しく並んだ石が奥にいくにつれて背景に溶け込むように構成されている。西に誕生した仏教が発展的に東に広がるさまを表現しているという。紅葉が散るかたちを、市松という意匠を通して表現したともいう。



東庭は柱石を星座のかたちに据えた「北斗七星の庭」東側の植栽は天の川を表している。昔は、今日とは違い、どこにいても綺麗な星空が見えたことだろう。



白沙村莊



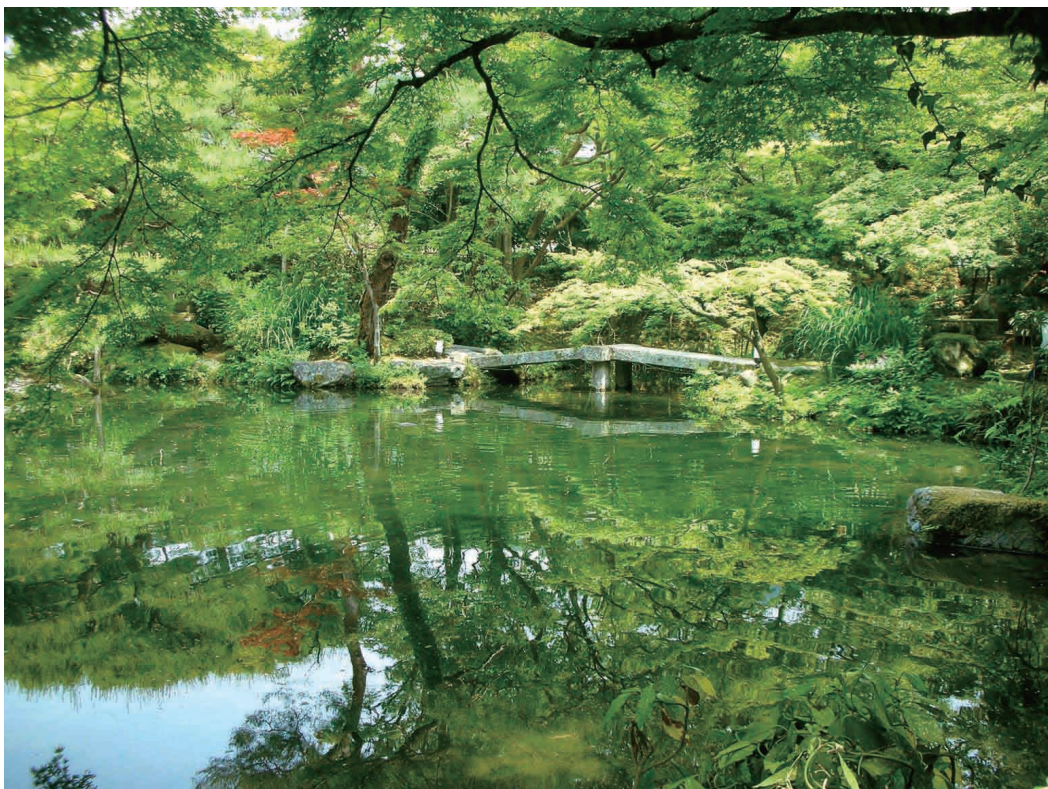
苔や緑が浸食していく。

混ざり合っても美しく感じるのは、これが藁葺き屋根という風流なものだからか。それとも、「京都」「白沙村莊」という概念があるからだろうか。

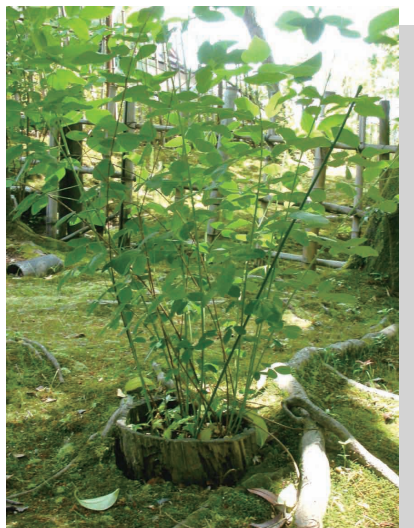
東京のビル群が苔や緑に覆われても、美しいと感じるのか。こんな妄想も、静寂が与えた結果だろう。

ともかく、こうなるまでに沢山の時間がかかったと思うが、植物という存在を通して、自然の力を感じた。

自然の力はすごい。地球が滅亡しても、いつかまた植物だけは復活すると思う。



白沙村莊



広い敷地のなかには、切られた樹木もちろほら目に付いた。
その多くには、新しい命が宿っていた。

絵画の枠に収まったように見える景色。
時の流れで見るたびに違った表情をみせる、自然の絵。
まったく同じ風景は二度とみられないということを思う
と、いつまでも眺めていたいと思わせる景色だ。



白沙村莊の印象は、とにかく自然の美であった。
植物にしても、苔にしてもすごく生き生きしている。なかでも、池に映った植物を含めた
景色が好きだ。水に映った景色はわずかな揺らぎでさえ見逃さず、様々な変化を見せる。
そのシーンに引き込まれてしまう。
植物が本当に生きて、意思をもっているかのようだ。

「静寂」という言葉に相応しい場所だと思う。

